

秋田米レポート

第27号（令和8年5月）

〔 目 次 〕

1	需要見通し	
	（1）全国の令和7/8年、8/9年の需要見通し	1
	（2）県産米の令和7/8年、8/9年の需要見通し	3
2	需給見通し	
	（1）全国の令和7/8年、8/9年の需給見通し	4
	（2）県産米の令和7/8年、8/9年の需給見通し	5
3	各種データ	
	（1）県産米と主要銘柄の相対取引価格の推移	7
	（2）県産米と主要銘柄の小売価格（POS）の推移	7
	（3）民間在庫量の推移（秋田県）	8

秋田県農林水産部
水田総合利用課

1 需要見通し

(1) 全国の令和7/8年、8/9年の需要見通し（令和8年3月基本指針より）

- ・ 需要見通しは、1人当たり消費量のトレンド推計値と人口の推計値により、令和7/8年が691～704万トンとなる。
- ・ 1人当たりの消費量と精米歩留まりに幅を持たせて需要見通しが算出されており、幅（上位値と下位値）のある値となっている。
- ・ また、8/9年の需要量は、696～711万トンと見通されている。

① 令和2/3年から令和6/7年までの各年の1人当たり消費量（精米）（推計値）を算出

	需要実績 (万トン)		インバウンド 需要量 (万精米トン) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米kg/人) (①-②÷③)
	玄米	精米 ①			
2/3年	704.0	631.3	0.0	126,146	50.0
3/4年	701.5	632.8	0.1	125,502	50.4
4/5年	691.1	622.3	1.9	124,947	49.7
5/6年	704.9	626.2	5.1	124,352	49.9
6/7年	712.7	635.0	5.7	123,802	50.8
				5年平均	50.2

注1: 需要実績の玄米は、各年の基本指針において示した値であり、精米は、玄米の値に「精米歩留まりの状況調査」による精米歩留まりを乗じた値である。

注2: インバウンド需要量は、日本政府観光局「訪日外客統計」及び観光庁「インバウンド消費動向調査(旧訪日外国人消費動向調査)」を基に算出した推計値である。

注3: 人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。

② ①で算出した1人当たり消費量（精米）（推計値）に人口（推計値）を乗じたものにインバウンド需要量（推計値）を加えて需要見通し（精米ベース）を算出

		令和7/8年	
		下位値	上位値
令和7/8年1人当たりの消費量	①	50.2精米kg/人	50.8精米kg/人
1人当たり消費量補正值	②	98.37%	98.98%
令和7/8年1人当たり消費量(補正後)	③=①×②	49.4精米kg/人	50.3精米kg/人
令和7年人口(推計)	④	123,210千人	123,210千人
令和7/8年消費量	⑤=③×④	608.1万精米トン	619.9万精米トン
令和7/8年インバウンド需要量(推計値)	⑥	6.1万精米トン	6.1万精米トン
令和7/8年需要見通し(精米)	⑦=⑤+⑥	614.2万精米トン	626.0万精米トン

		令和8/9年	
		下位値	上位値
令和8/9年1人当たり消費量	①	50.2精米kg/人	50.8精米kg/人
令和8年人口(推計値)	②	122,609千人	122,609千人
令和8/9年消費量	③=①×②	615.2万精米トン	623.3万精米トン
令和8/9年インバウンド需要量(推計値)	④	6.6万精米トン	6.6万精米トン
令和8/9年需要見通し(精米)	⑤=③+④	621.8万精米トン	629.9万精米トン

注1: 令和7/8年及び令和あ8/9年1人当たり消費量の下位値には、①で算出した1人当たり消費量(精米)(推計値)の直近5年平均、上位値には、①で算出した1人当たり消費量(精米)(推計値)の直近5年最大値の値。

注2: 令和7/8年の1人当たり消費量補正值は、需要実績の直近3年平均値に占める令和7/8年のとう精米量を加味した需要見込みの割合である。

注3: 令和7年人口(推計値)は、「人口推計(総務省、令和7年10月公表)」の総人口(令和7年10月1日現在(概算値))。以下「令和7年10月現在人口」という。)の値。

令和8年人口(推計値)は、令和7年10月現在人口に、「日本将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所、令和5年4月公表)」の令和7年10月1日から令和8年10月1日までの総人口(出生中位・死亡中位推計)の減少率を乗じて算出した値。

注4: 令和7/8年及び令和8/9年インバウンド需要量(推計値)は、訪日外国人数を政府目標(2030年に6,000万人)に向かって増加すると仮定した場合の当該期間の訪日人数に、令和6/7年の1人当たりの平均泊数、米食回数を1泊当たり2回及び1食当たり78g(FAO供給熱量データに基づき推定)を乗じて算出した値。

③ 精米歩留まりの変動を考慮し、需要見通し（玄米ベース）を算出

精米歩留まり	
3年産	90.3%
4年産	90.0%
5年産	88.6%
6年産	89.2%
7年産	88.8%
5年平均	89.4%

注：精米歩留まりは、「精米歩留まりの状況調査（令和8年1月末時点）」の値である。

		令和7/8年	
		下位値	上位値
令和7/8年 需要見通し(精米)	①	614.2万精米トン	626.0万精米トン
令和6年産精米歩留まり (令和7年7月～令和7年8月)	②	89.2%	89.2%
令和7年産精米歩留まり(見込み) (令和7年9月～令和8年6月)	②	88.8%	88.8%
令和7/8年需要見通し(玄米)	③=①÷②注1	691.2万精米トン	704.4万精米トン

		令和8/9年	
		下位値	上位値
令和8/9年需要見通し(精米)	①	621.8万精米トン	629.9万精米トン
令和8年産精米歩留まり	②注2	89.4%	88.6%
令和8/9年需要見通し(玄米)	③=①÷②	695.7万玄米トン	710.9万玄米トン

注1：令和7/8年需要見通し(玄米)は、令和7/8年需要見通し(精米)のうち、令和7年7月から令和7年8月までの2か月分は令和6年産精米歩留まりで算出し、令和7年9月から令和8年6月までの10か月分は令和7年産精米歩留まり(見込み)で算出した合計値である。

注2：令和8年産精米歩留まり(見込み)の下位値には、直近5年平均の値、上位値には、直近5年最小値の値を用いる。

7年産米の需要は、692万～704万トンと見通されています。6年産米の需要実績は713万トンなので、最大で21万トンも減少します。



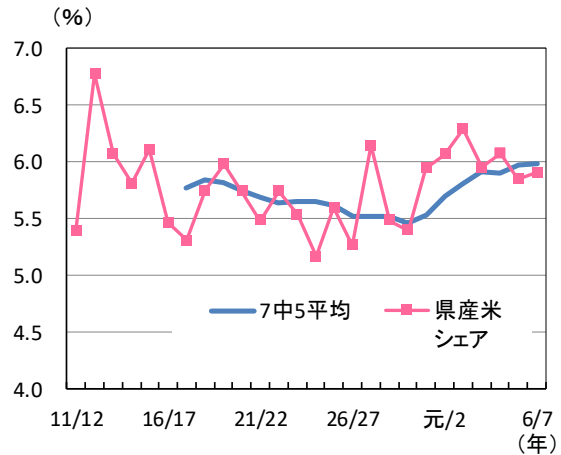
8年産米の需要見通しは、696万～711万トンと見通されています。生産量の見通しと同数としています。

(2) 県産米の令和7/8年、8/9年の需要見通し（県による推測）

- 令和6/7年産米の需要実績は42.1万トンで、県産米の全国シェアは5.91%。直近7か年（平成30～令和6年）のうち、中庸5か年の平均（以下、「7中5」）は5.99%となる。
- 令和7/8年及び8/9年の需要見通しは、国と同様に直近5か年の平均値である42.3万トンとした。

① 平成11/12年～令和6/7年の県産米シェア

年	県需要実績 ①	全国需要実績 ②	県産米シェア ①/②	7中5平均
	トン	トン	%	%
11/12	478,066	8,859,347	5.3962	
12/13	617,463	9,115,031	6.7741	
13/14	529,384	8,720,750	6.0704	
14/15	519,806	8,947,424	5.8096	
15/16	526,376	8,616,309	6.1091	
16/17	473,031	8,653,922	5.4661	
17/18	452,431	8,516,680	5.3123	5.7703
18/19	481,711	8,374,824	5.7519	5.8414
19/20	511,421	8,545,242	5.9849	5.8166
20/21	473,064	8,235,513	5.7442	5.7513
21/22	446,570	8,141,280	5.4853	5.6865
22/23	471,039	8,199,964	5.7444	5.6384
23/24	450,496	8,132,739	5.5393	5.6530
24/25	403,815	7,811,000	5.1698	5.6530
25/26	440,402	7,866,000	5.5988	5.6224
26/27	412,193	7,825,000	5.2676	5.5270
27/28	470,654	7,662,000	6.1427	5.5271
28/29	413,615	7,540,000	5.4856	5.5272
29/30	399,388	7,396,000	5.4001	5.4583
30/元	436,760	7,346,000	5.9455	5.5395
元/2	433,456	7,143,500	6.0678	5.6996
2/3	443,083	7,040,000	6.2938	5.8083
3/4	417,616	7,015,000	5.9532	5.9190
4/5	419,589	6,911,000	6.0713	5.9047
5/6	412,709	7,049,000	5.8549	5.9785
6/7	421,153	7,127,000	5.9093	5.9894
7/8	422,830	6,974,000 ～ 7,113,000	推計値	
8/9	422,830	6,960,000 ～ 7,110,000	推計値	



7中5平均の県産米シェアを見ると、生産数量目標の配分が廃止された平成30年産以降、上昇傾向にあります。



注: 令和6/7年県需要実績は、備蓄米放出による影響を考慮した推計値
 注: 令和7/8、8/9の県需要見通しは、直近5か年の平均値

2 需給見通し

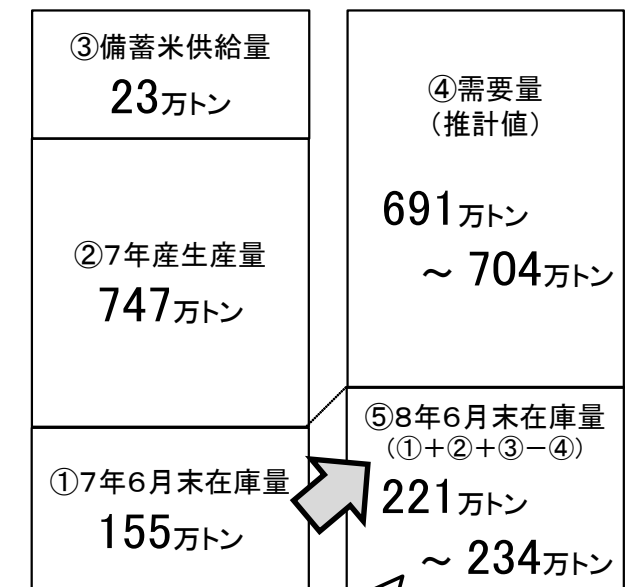
(1) 全国の令和7/8年、8/9年の需給見通し（令和8年3月基本指針より）

- ・ 令和7/8年の需要見通し（691万～704万トン）や1月末時点の作付意向調査を踏まえると、8年6月末在庫量は、221万～234万トンと見通される。
- ・ 令和8年産の生産量については、1月末の作付意向調査を踏まえ719万～732万トンと設定された。
- ・ 令和8/9年の期首在庫（⑤）と令和8年産の生産量（⑥）の合計から、8/9年需要量見通し（⑦）を差し引くと、令和9年6月末在庫は229万～271万トンと見通される。

< 令和7/8年の需給見通し >

【供給】

【需要】

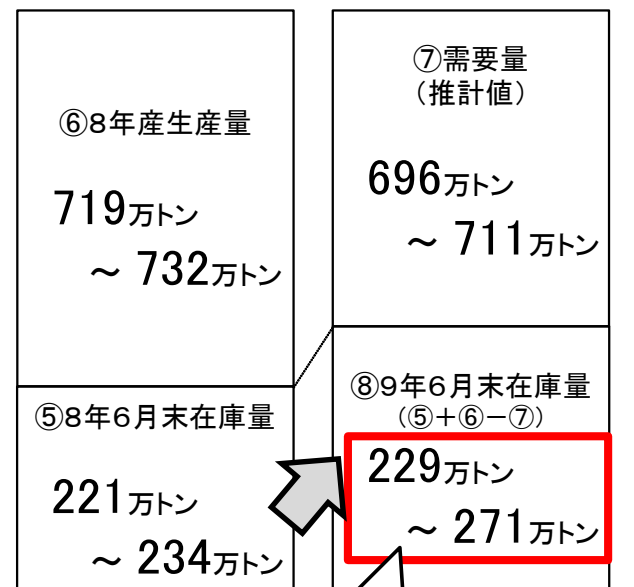


適正と言われている水準は
180万～200万トン

< 令和8/9年の需給見通し >

【供給】

【需要】



適正と言われている水準は
180万～200万トン

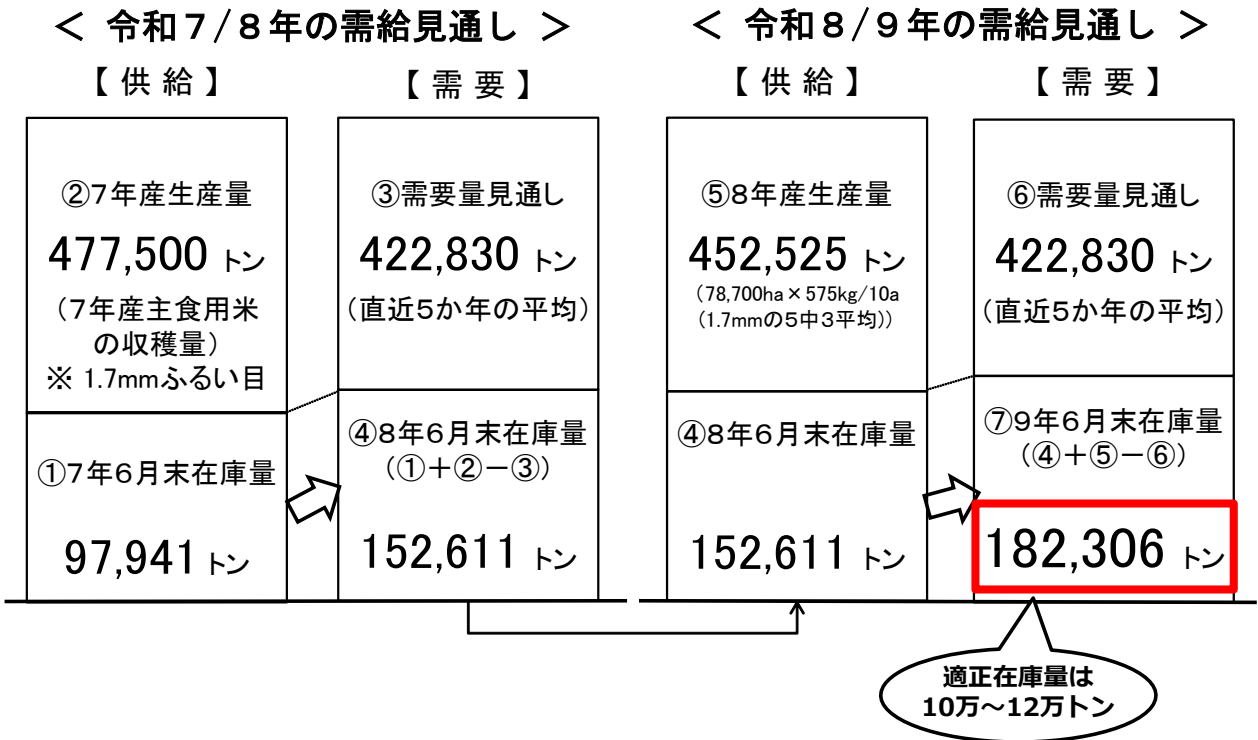
令和7年6月末の在庫は、
155万トンなのに、1年後
には234万トンになるのか。
適正水準よりも30万トン以
上も増えてしまうね。



令和9年6月末の在庫
量は、更に増えるのね。
平成26年にも在庫が積
み上がり、米価が下落
したことがあったけ
ど、今回はどうなるの
かな。

(2) 県産米の令和7/8年、8/9年の需給見通し

・ 令和7/8年及び8/9年の需要見通しを、直近5か年の平均値である42.3万トン、令和8年産の生産量を、4月末時点の作付意向を踏まえて45.3万トンとした場合、令和9年6月末在庫量は18.2万トンとなる見通し。



県産米の適正在庫量は10~12万トンだったな。令和8年6月末は15万トンで、適正水準よりも3万トン以上も多いのか。

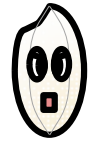


令和9年6月末の在庫量は更に増えて、需給が大幅に緩む可能性が高いのか。9年産に影響しないようにしっかりと考えて作付けしないとね。

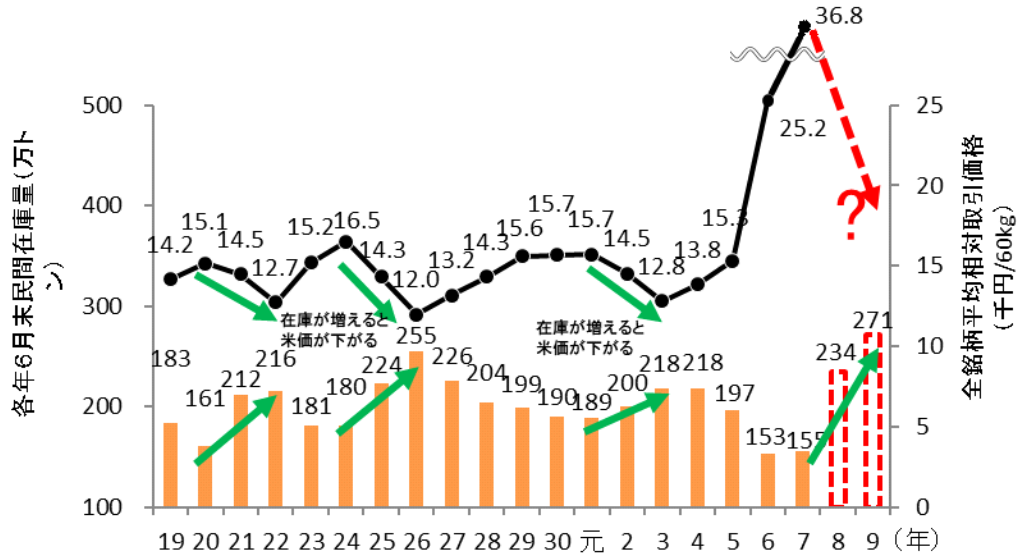


コーヒーブレイク ～マイ倉くんのつづやき～

これまでの全国の相対取引価格と在庫量の関係から、在庫量が前年より増加した年は、米価が下落するようだね。



マイ倉くん



マイ倉くん

全国の令和8年6月末在庫量は、最大で234万トンと見通されており、前年から79万トンも増えるようだ！
7年産米の相対取引価格は、令和の米騒動から過去最高になったけど、8年産米の価格は、7年産の在庫量が大きく影響しそうだね。
9年産の在庫に影響しないように、輸出用米等の非主食用米の取組が必要になるね！

3 各種データ

(1) 県産米と主要銘柄の相対取引価格(※)の推移

※ 出荷業者と卸業者等との間で、数量と価格が決定された主食用の相対取引価格（運賃、包装代、消費税含む1等米価格）を加重平均したもの（玄米60kg当たり）。

相対取引価格(各年産の通年平均と令和8年4月速報値)

単位:円/玄米60kg、%

	秋田あきたこまち	秋田ひとめぼれ	北海道ななつぼし	新潟コシヒカリ(一般)	全銘柄平均
R5年産	15,317	14,375	15,655	16,927	15,315
R6年産	24,806 (162)	22,285 (155)	27,035 (173)	25,636 (151)	25,179 (164)
R7年産	37,556 (151)	33,968 (152)	35,469 (131)	38,322 (149)	35,911 (143)

※ R5～R6は出回りから翌年10月まで、R7は出回りから令和8年4月までの平均価格。

※ 括弧内数値は前年産との比較

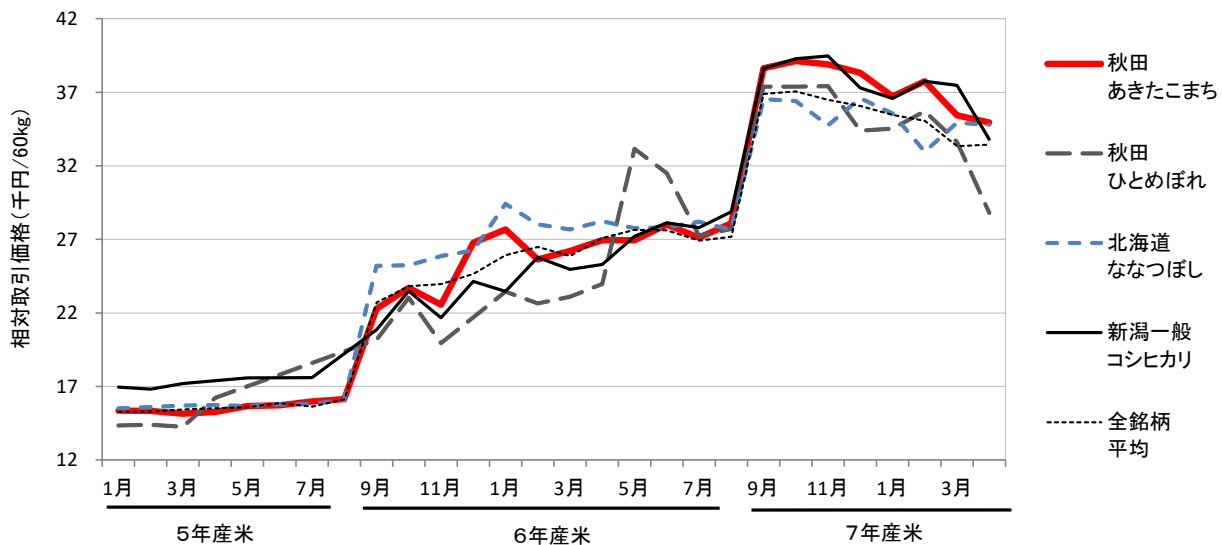


図 県産米と主要銘柄の相対取引価格の推移

(2) 県産米と主要銘柄の小売価格 (POS) (※)の推移

※ 全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格。(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成。全国約1,000店舗のスーパー、生協等（ドラッグストアは約400店舗）のデータに基づく。

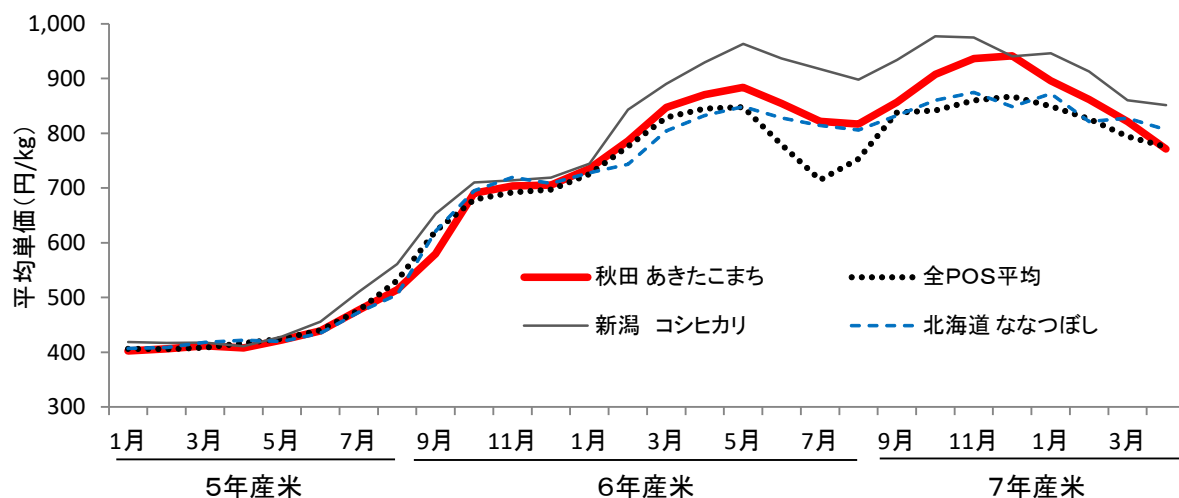


図 POS平均価格の推移

(3) 民間在庫量(※)の推移(秋田県)

- 令和7/8年の出荷+販売段階の在庫は、過去5年平均を上回って推移している。

※ 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)。出荷段階は、全農、県単一農協、県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)。販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)。

【出荷+販売段階】

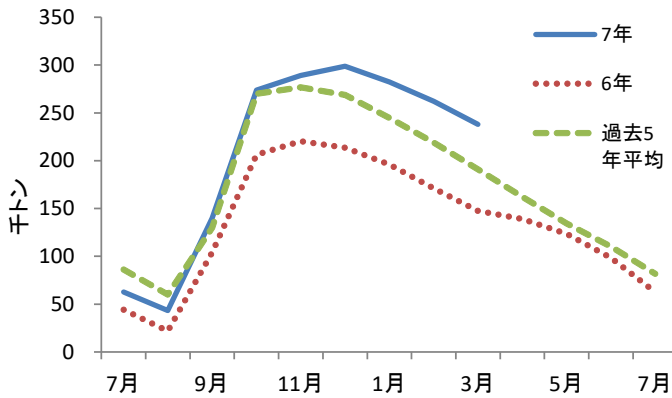


図 県産米民間在庫量の推移(速報)

出荷・販売段階は、民間在庫量の総計になります。数量が大きいため、変化は現れにくいものの、大きな流れをつかむことができます。

【出荷段階】

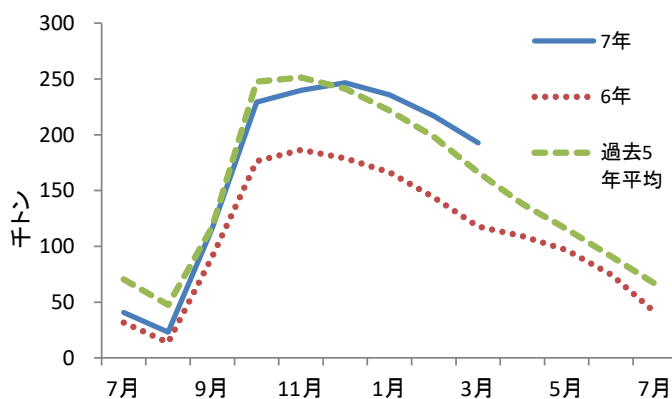


図 県産米出荷段階在庫量の推移(速報)



出荷段階は、集荷業者の在庫量になります。販売段階は、卸業者やその先の在庫量になります。

【販売段階】

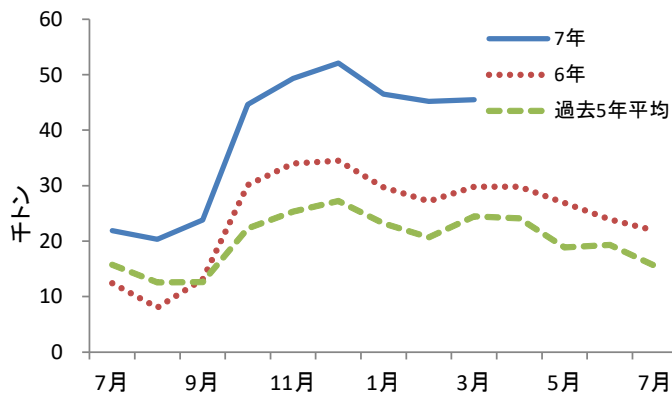


図 県産米販売段階在庫量の推移(速報)